

古代山城成立地における考古学的地域史研究

—おつぼ山神籠石をケーススタディーとして—

野良考古学研究所 徳富 孔一

<要 旨>

佐賀県武雄市橘町に所在するおつぼ山神籠石は、杵島山山塊西麓部に位置し、有明海の入江状地もしくは接続河口部を直視することは可能だが、有明海の海原を直視することは出来ない。従って、おつぼ山神籠石には、対有明海防備ではない役割・性格が考えられる。そこで、本稿では、おつぼ山神籠石が成立する六角川中流域及び武雄盆地における弥生時代早期から古墳時代終末期（飛鳥時代）までの考古学的地域史研究をミクロ的に行い、その上で、マクロ的に六角川中流域の地域的特性を考察する。

まずミクロ的な地域史研究では、武雄川流域北岸と六角川中流域が、基本的に弥生時代早期以来、遺跡形成を継続させる地域であるが、武雄川流域北岸が古墳時代前期前葉以降に空隙を生むのに対し、六角川中流域は遺跡形成が鈍くなりながらも継続させ、古墳時代中期後葉以降に首長墓系譜を確立する地域となることが分かる。そして、弥生時代後期に中広形銅矛が埋納された玉江遺跡は、そこより六角川上流に遺跡展開を見ないことから、フロンティアな遺跡であり、弥生時代終末期以降に遺跡形成が進み、古墳時代には竪穴建物と掘立柱建物が並ぶ景観となる。また、陸路で接する藤津郡域の杵島山山塊西南部では古墳が確認されないことや、杵島山山塊北部では別の首長墓系譜が成立していることから、六角川中流域はフロンティアな性格を有した小世界を築いていたと言える。

次にマクロ的な考察では、六角川中流域は、弥生時代において環濠集落や金属器といった玄界灘沿岸文化と台付甕や肥前型器台といった環有明海の文化の十字路であり、それが古墳時代前期前葉以降の斉一的な古墳文化（布留式土器様式・前方後円墳）によって一端解消されたにせよ、古墳時代中期後葉から筑紫君の関与の下で再びフロンティアな場所として機能したことが分かる。

それらのことから、六角川中流域に成立する有明海準直視型古代山城のおつぼ山神籠石は、辺境警備の役割・性格を有し、大宰府防衛における南面の防備として、筑紫君の版図ないし版図外に睨みを利かせていたことが考えられる。

古代山城成立地における考古学的地域史研究

—おつぼ山神籠石をケーススタディーとして—

野良考古学研究所 徳富 孔一

はじめに—問題の所在—

- ・おつぼ山神籠石：佐賀県武雄市橘町の杵島山山塊西麓部に位置する神籠石式山城
- ・環有明海の古代山城：有明海直視型・準直視型・非直視型
 - おつぼ山神籠石：準直視型；当時の有明海入江状地、もしくは接続する河口部を直視可
 - ⇒対有明海防備ではない古代山城の役割→地政学的な意味
- ⇒おつぼ山神籠石が所在する六角川中流域ないし武雄盆地の地域史を系譜学的に紐解く
- 弥生時代早期～古墳時代終末期（飛鳥時代）

1. 武雄盆地の弥生時代

（1）弥生時代早・前期の集落と墓葬

○武雄川流域北岸

〈集落〉

- ・小楠遺跡：環濠（ただし、集落の内実は不明）；唐津地域に分布の中心を持つ甕が出土

〈墓葬〉

- ・小楠遺跡：113 街区 B・SJ1724 甕棺墓

○六角川中流域

〈集落〉

- ・郷ノ木遺跡：土坑から弥生時代早期の可能性のある浅鉢口縁部片
- ・下貝原遺跡：刻目突帯文土器片採集
- ・潮見遺跡・みやこ遺跡・市場遺跡・郷ノ木遺跡：弥生時代前期土器を伴う土坑や溝

〈墓葬〉

- ・郷ノ木遺跡 B 地点：SJ014・SJ019・SJ020 甕棺墓

⇒弥生時代早期から遺跡形成：環濠集落、唐津地域に分布の中心を持つ甕→玄界灘文化の影響

（2）弥生時代中期の集落と墓葬

○武雄川流域北岸

〈集落〉

- ・小楠遺跡：竪穴住居跡（円形プラン）：111 街区 A・SH122
- ・梶原遺跡：竪穴住居跡（円形プラン）：123 街区 SH1602・SH1607、SH023
- ・竹ノ下遺跡：掘立柱建物：SB650・SB1480・SB1482・SB1484・SB1486・SB1487
 - 竪穴住居跡（円形プラン）：SH380・SH880・SH1200
 - 竪穴住居跡（方形プラン）：SH090・SH375・SH1050

〈墓葬〉

- ・小楠遺跡・梶原遺跡：甕棺墓；鉄鏃出土が伝わる

○六角川中流域

〈集落〉

- ・みやこ遺跡・郷ノ木遺跡：弥生時代中期土器を伴う土坑群（丹塗り土器）
- ・東福寺遺跡：竪穴住居（円形・方形プラン）：（SH004・SH005・SH006・SH007・SH009・SH010）
- ・みやこ遺跡 SK405 土壇：双孔を持つ鉄剣 1 点

〈墓葬〉

- ・みやこ遺跡：小児棺
- ・釈迦寺遺跡：弥生時代中期前半代の成人甕棺墓
SJ246 甕棺墓（“金海くずれ”甕棺）：細形銅戈 1 点
SJ279 甕棺墓（K II a 式）：細形銅剣 1 点・青銅製鉞 1 点

○六角川下流域

〈集落〉

- ・東宮裾遺跡：竪穴住居（隅丸方形プラン）：SH009

〈墓葬〉

- ・朝日ダム遺跡：甕棺墓：細形銅剣 1 点
- ・東宮裾遺跡：甕棺墓

⇒遺跡形成の活発化→六角川下流域にも展開（武雄川南岸域でも須玖式土器採集）、金属器の流入

（3）弥生時代後期の集落と墓葬

○武雄川流域北岸

〈集落〉

- ・小楠遺跡：方形プランの竪穴住居が急増；台付甕や肥前型器台出土、轆羽口出土←金属器生産
- ・武雄小学校校庭：四乳四咫鏡片採集

〈墓葬〉

- ・小楠遺跡：箱式石棺墓・石蓋土壇墓
- ・山下遺跡：甕棺墓；貨泉を伴う

○六角川中流域

〈集落〉

- ・みやこ遺跡：弥生時代後期土器を伴う土坑群；台付甕や肥前型器台、ジョッキ形土器出土
- ・茂手遺跡：掘立柱建物：SB702；柱穴より有鉤銅釧
- ・納手遺跡 SK228 土壇・茂手遺跡Ⅳ区：小形仿製鏡
- ・みやこ遺跡Ⅵ区下層：四乳四咫鏡片
- ・茂手遺跡 SK406 土壇：素環頭刀子

〈墓葬〉

- ・成人甕棺墓・箱式石棺墓・石蓋土壙墓・土壙墓
- ・みやこ遺跡 SP305 石棺墓：雲雷文帯内行花文鏡片
- ・みやこ遺跡 SP1001 石棺墓：素環頭刀子
- ・郷ノ木遺跡 SP405 土壙墓：鉄製刀子・小形仿製鏡

〈埋納〉

- ・玉江遺跡：中広形銅矛←領域認識

○六角川下流域

〈墓葬〉

- ・東宮裾遺跡：石蓋甕棺墓：巴形銅器数点・銅銭（貨泉？）5～8枚・管玉・鉄剣が出土

⇒武雄盆地一帯に環有明海の土器や舶載品・舶載原料を基にした金属器の流入

（４）弥生時代終末期の集落と墓葬

○武雄川流域北岸

〈集落〉

- ・小楠遺跡：集落遺跡継続

〈墓葬〉

- ・小楠遺跡：箱式石棺墓など

（高橋川流域）

- ・森崎遺跡：井戸

○六角川中流域

〈集落〉

- ・みやこ遺跡・茂手遺跡・納手遺跡：土坑群や溝
- ・玉江遺跡：土坑

○六角川下流域南岸

〈墓葬・祭祀〉

- ・貝良木遺跡：石蓋土壙墓・箱式石棺墓・祭祀遺構 SX15

（５）小結

- ・弥生時代早・前期：環濠集落、唐津地域を分布の中心とした甕
- ・弥生時代中期：武器形青銅器・鉄器の流入
- ・弥生時代後期：中国鏡片・小形仿製鏡・素環頭刀子などの金属器の流入、金属器生産
台付甕・肥前型器台・ジョッキ形土器の流入

⇒玄界灘沿岸と環有明海地域の文化が交差

2. 武雄盆地の古墳時代

(1) 古墳時代前期の集落と墳墓

○武雄川流域北岸

〈集落〉

- ・小楠遺跡：古墳時代前期前葉まで竪穴住居が見られる

〈墓葬〉

- ・梶原遺跡：方形周溝墓

(甘久川流域)

- ・多蛇古1号墳：前方後円墳

(高橋川上流域)

- ・藤田遺跡：竪穴住居：SH002

○六角川中流域

〈集落〉

- ・納手遺跡・市場遺跡・下貝原遺跡：土坑群
- ・玉江遺跡：竪穴住居：SB302・SB304・SB305・SB309・SB310・SB321・SB331・SB332（～中期中葉）

〈墓葬〉

- ・おつぼ山石棺遺跡：箱式石棺墓
- ・東福寺遺跡：箱式石棺墓・竪穴石室墳（ST017・ST018）

○武雄川流域南岸

〈墓葬〉

- ・白岩丘陵：箱式石棺墓、巨大箱式石棺（上の山古墳）
- ・矢ノ浦古墳：前方後円墳（前期後葉～）

⇒武雄川流域南岸・甘久川流域で前方後円墳の出現←弥生時代以来の遺跡形成地から文脈が未明

(2) 古墳時代中期の集落と墳墓

○武雄川流域北岸

〈集落〉

- ・竹ノ下遺跡：竪穴住居：SH329・SH350・SH1000（中期後葉～）

〈墓葬〉

- ・竹ノ下遺跡：方墳

(甘久川流域)

- ・多蛇古2号墳：円墳

○六角川中流域

〈集落〉

- ・小野原遺跡・下貝原遺跡：土坑や溝

- ・市場遺跡：竪穴住居：SB401・SH050
- ・玉江遺跡：前期に引き続き竪穴建物

〈墳墓〉

- ・東福寺遺跡：粘土槨割竹形木棺葬の方墳：ST015、竪穴系横口式石槨：ST001
- ・玉島古墳：佐賀県下最大級の円墳
- ・潮見古墳：潤沢な副葬品

○武雄川流域南岸

- ・野間峠遺跡：竪穴建物 2 棟

⇒武雄川流域北岸では中期前半代が空隙となるが、六角川中流域では遺跡形成が継続的

(3) 古墳時代後期の集落と墳墓

○武雄川流域北岸

〈集落〉

- ・竹ノ下遺跡：後期後半まで竪穴住居
(高橋川上流)

- ・藤田遺跡：竪穴住居：SH001

〈墳墓〉

- ・横穴式石室墳の分布は確認されているが、調査が行われていない

○六角川中流域

〈集落〉

- ・納手遺跡・茂手遺跡・みやこ遺跡：土坑や溝
- ・納手遺跡：掘立柱建物：SB205
- ・玉江遺跡：掘立柱建物：SB203・SB207（遺構年代が詳らかではない古墳時代後半期の掘立柱建物も）
- ・市場遺跡：竪穴住居：SB409
- ・玉江遺跡：竪穴住居：SB201・SB202

〈墳墓〉

- ・釈迦寺遺跡 ST201：横穴式石室墳
- ・鳴瀬山頂古墳群 1 号墳：横穴式石室墳
- ・東福寺遺跡：横穴式石室円墳：ST002・ST003・ST013・ST014 → ST014 から飛燕式鉄鍬
前方後円墳（～ I 期）：ST022・ST024

○六角川下流域北岸

- ・立山古墳群 1・2 号墳：横穴式石室円墳

⇒六角川中流域で集落・墳墓とも遺跡形成が活発、明瞭な首長墓系譜

(4) 古墳時代終末期（飛鳥時代）の集落と墳墓

○六角川中流域

〈集落〉

- ・みやこ遺跡：竪穴住居：SB1002
 - ・玉江遺跡 3 区 SK316 土坑：鞆羽口出土→Ⅱ期以降に鉄器製作
 - ・潮見遺跡・みやこ遺跡・郷ノ木遺跡・玉江遺跡：土坑や溝、不明遺構
- ⇒武雄盆地一帯で遺跡形成が鈍る中、六角川中流域では鈍る中でも継続
Ⅱ期以降（須恵器坏 G・坏 B を主体）の墳墓は未明

(5) 小結

- ・武雄川流域北岸・六角川中流域・武雄川南岸域で遺跡形成
←武雄川南岸域は須玖式土器の採集しかないが、武雄川流域北岸・六角川中流域は弥生時代以来の場所
- ・前方後円墳の矢ノ浦古墳（武雄川南岸域）・多蛇古 1 号墳（甘久川流域）
- ・六角川中流域における玉島古墳―潮見古墳―東福寺 ST022・ST024 の首長墓系譜→おつぼ山神籠石の成立

3. 考察

(1) 武雄盆地内における六角川中流域という場所

- ・弥生時代早期以来の遺跡形成地
 - ・古墳時代中期以降の首長墓系譜
→古墳時代終末期（飛鳥時代）も首長権を示す遺跡はないが、それを保ったか
←玉江遺跡 3 区の鉄器製作遺跡
 - ・玉江遺跡：弥生時代後期に中広形銅矛埋納地
弥生時代終末期より遺跡形成→古墳時代には竪穴建物や掘立柱建物が並ぶ景観へ
 - ・玉江遺跡より六角川上流には、古墳時代遺跡が展開しない⇒フロンティアとしての玉江遺跡
 - ・陸路で接する藤津郡域の杵島山山塊西南部では、古墳が確認されない
 - ・同様に、杵島山山塊北部とも違う領域：前方後円墳の箕具崎 2・3 号墳
- ⇒六角川中流域：有明海北西部の入江に面したフロンティア的小世界（→「杵島縣」？）

(2) 九州北西部における六角川中流域という場所

- ・北からの文化：玄界灘的文化；環濠集落・金属器
 - ・南からの文化：環有明海的文化；台付甕・肥前型器台
- ⇒弥生時代後期には、文化の十字路、フロンティア的地域色
- ・古墳時代前期前葉における斉一的な古墳文化（布留式土器様式）の伝播→地域色の解消
 - ・古墳時代中期中頃の佐賀平野における集落の「断絶」現象
→古墳時代中期後葉以降における人工的な社会統御装置としての古墳を用いた地域社会再駆動
←筑紫君
- ⇒フロンティア的地域色の再形成：杵島郡奥地にも藤津郡にも前方後円墳が及ぶことはなかった

おわりに

- ・おつぼ山神籠石が成立した地域：フロンティア的性格⇒フロンティアにおける古代山城：辺境警備
- ・築城主体と目的：①倭王権が築城：唐・新羅連合軍に対する大宰府防備のための南面防備

※南面：筑紫君の版図

- ②倭王権—筑紫君が築城：唐・新羅連合軍に対する大宰府防備のための南面防備

※南面：筑紫君の版図外

⇒有明海準直視型神籠石式山城が投げ掛ける古代山城の役割→鞠智城成立地にも言は及ぶ